

航友会だより

発行 中日本航空専門学校航友会事務局 〒501-32 岐阜県関市追間1577 中日本航空専門学校内 ☎ 0575-24-2521

目 次	
学校の概説の紹介	2
学校の歩み	2
新設学科の紹介 (航空技術科、電子機械科)	3
総会開催される	3
新会員の挨拶	3
新役員の紹介	3
代議員会開催	4
沖縄支部の設立	4
スタジオ・メッセージの紹介	4
不明者調査	4



(左前が第二実習棟、その奥が発動機実習棟、中央前が第一実習棟、その奥が機体実習棟、機体実習棟の左が試運転場、右が本館、右の奥に見えるのが関市の市街)

関市の丘陵地に広がる キャンパス



この写真(中央の道路より上側の建物)は、昭和45年の開校当時の愛知県江南市(木曽川を挟んで各務原の南側)にあった校舎です。「えっ! この建物が?」そんな風に言わないでください。中央の、かまぼこ型の格納庫(現在の五分の一程度)の中には、機体が五機入っていたのです。

現在この場所は、東海地区有数の大型パチンコ店(正面ウインドウの白熊が目印)になっています。

中日本航空専門学校は、昭和45年4月に開校して以来、本年で十七周年を迎える。開校当初は整備科のみでしたが、電子機械科が昭和57年4月に、航空技術科が昭和61年4月にそれぞれ発足し、現在では三学科体制となって教育が行われています。

昭和45年4月の創設以来航空整備科は十五期生までの卒業生が千八百十四名、電子機械科は三学期までの卒業生が三百五名、両科の合計二千百十九名の卒業生を産業界に広く送りだしている。在校生は航空整備科の一年生(十七期生)と二年生の合計が三百六十七名、電子機械科の一年生(五期生)と二年生の合計が百八十名、

航空技術科の一年生(一期生)が五十三名で、総数六百名となっています。開校当初の一学年一クラスが三十数名だった第一期生のOBの方々から見れば、驚くばかりの数字ではないかと思います。昭和57年4月に学校の場所も航空整備科の十三期を最後に愛知県江南市の校舎から、岐阜県関市(関の孫六や刃物の町として有名)へ移転し本年ではや五年目を迎えました。

本号では、大きく変わってきた中日本航空専門学校の姿を紹介致します。

新時代の技術者を育てる

2000名を越す卒業生

